



EDF WAS AWARDED
"NGO OF THE YEAR 2012"



重労働で稼いで生活しているたくましい中3の女の子

チョンティチャー・パンウォンサー

タイの農村には、家計を支えるために、重労働に従事している子どもたちがいます。労働法に照らし合わせて、子どもたちがこのような形で働くべきか否かについて判断するのは難しいことです。

極度の貧困、家庭の崩壊、子どもを高齢者に預ける親。このような事情から、自分と家族の生活を支えるために必死に働かなければならない子どもたちがいます。そのため、タイの都会から遠く離れた農村部では、小さな子どもたちが、農地や工場で働く姿をよく見かけます。

チョンティチャー・パンウォンサー(愛称はタップティム)は14歳の女の子で、EDFの奨学生です。チャイヤプーム県コーンサーン郡のバーントウンプラ校に通う中学校3年生です。タップティムは、60歳になる祖父母と姉の息子にあたる甥と一緒に暮らしています。彼女たちが住んでいるのは、セメントを塗ったレンガ積みの平屋建ての家です。家の中には、がらんとした部屋が一部屋あるだけで、そこに皆と一緒に寝て暮らしています。

タップティムの両親は離婚しました。父親については、どこかに働きに行っ

たまま、どこにいるのか、誰も知りません。ただ、しばらくして、一度だけ、娘に会うために家に帰ってきたことがあります。しかし、父親が娘のために送金してくれることはありません。

母親は、チョンブリー県で働いており、毎月お金を送ってくれます。でも金額は多くありません。タップティムの祖父は、日雇いの農作業をして働いています。たとえば、稲刈りが終わった田んぼで稲を引き抜く仕事をしています。しかし、報酬として受け取るのは、現金ではなく、白米です。祖母が、この農作業を手伝うこともあります。他に、祖母は、政府から毎月600バーツを受け取っています。このような家庭事情から、タップティムは一家の大黒柱として働いています。毎朝、食事の準備をして、家の仕事を片付けてから、登校します。学校から戻ってからも、甥の世話をしなければなりません。

タップティムは、毎日、学校へ20バーツを持っていきます。日によっては、学校の中にあるお店で、昼食を買わなければならないこともあります。というのも、学校は生徒全員に、十分な昼食を

提供することが出来ないからです。20バーツのうち残ったお金は、先生に預けています。そのお金は、現在約500バーツになりました。

土日と休日は、タップティムは、近所の人達と一緒に、サトウキビを刈る仕事に出かけます。彼女が住むコーンサーン郡には、たくさんのサトウキビ畑があるのです。そしてこの仕事が、家族の生活を支えています。彼女は、朝6時から仕事を始めて、夕方5時まで働きます。その間、休憩は昼の1時間のみで、賃金は、刈り取ったサトウキビの本数によって決まります。サトウキビ10本を刈って、1バーツにしかなりません。

タップティムは、1日働いて、大体70-100バーツを稼ぎます。ですから、彼女は1日当たり、700本から1,000本のサトウキビを刈り取っていることになりました。これは、彼女のような少女にとって、とても厳しい仕事です。



「この仕事をする、私はとても疲れます。朝早く起きて、夕方までサトウキビを刈らなければならないのです。サトウキビは私の背よりも高く、刈り取るのは本当に大変です。刈り取った後は、ナイフで少し皮を剥いで、束ねたうえで、他の人と協力してトラックに積み込みます。炎天下でこの作業をするのは、とても暑いのです。でも、私は我慢しなければなりません。この仕事以外に、どうやって家族のためのお金を稼いだら



刈り取ったサトウキビをナイフで皮を剥く



毎日やらなければならない家事

いいのか、私にはわかりません。甥っ子はまだ小さいので、私が面倒を見なければならぬのです。」

タップティムの将来の夢は、国語の先生や旅行ガイドのような、人とたくさん話す職業に就くことです。学校の勉強の中で国語が一番好きで、しかも人と話すのが得意だからです。たくさんの人に、いろいろなお話、例えばドークグラジアウという花の畑のようなチャヤプーム県の観光名所に関するお話を、説明して聞かせてあげたいそうです。

EDFの奨学金については、次のように話してくれました。「善意の方から、奨学金を受け取るようになって2年がたちました。私が

勉強を続けるうえで、この奨学金は本当に役に立っています。奨学金は、学校では支給されないガールスカウトの制服や学生靴を買うのに使っています。ドナーの方には、心から感謝しています。もし、ドナーの方とお会いする機会があれば、お礼を申し上げるだけでなく、私の住んでいる町にも案内したいです。」

タップティムは、家計を支えるべき両親などが不在のため、勉強と同時に、生きるために厳しい仕事に従事せざるを得ない子どもたちの一人です。学校では、教育に必要なものすべてが支給されるわけではありません。EDFの奨学金は、タップティムのような子どもの教育費用の負担を軽減するのに役に立っているのです。

2013年度進学の子どもたちへの募金は、2013年6月30日まで行っています。恵まれない子どもたちは、教育と生活を通して、夢を待つことの出来る機会を与え、将来タイの社会を支える大人になっていくために、皆様にもこれからも引き続きご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ニュース・イベント



シーサームウィット幼稚園がタイ深南部の爆弾テロによる被害者にご寄付

2013年5月13日、バンコク・シーサームウィット幼稚園の1～3年生の代表者及び先生グループは、生徒たちの貯金活動より26,700パーツを

寄付していただきました。この寄付金は、タイ深南部の爆弾テロにより両親を亡くした生徒に提供します。

在タイアメリカ婦人協会が321口の奨学金をご支援

2013年5月15日、在タイアメリカ婦人協会(American Women's Club of Thailand)は、EDFオフィスにて2013年度の奨学金支援活動について会議の上、今年321人の学生たちのため、合計1,926,000パーツをご寄付いただきました。



SCG PAPER会社の奨学金贈呈

2013年5月17日、SCG PAPER会社の代表者アティヤヤー・ジャンパー氏(左から3番目)から、同社の製品「Green Read」のFACEBOOKページでの社会貢献キャンペーンにより集められた募金50,000パーツを、ヤラー県での爆弾テロにより両親を亡くした10人の子どもに提供していただきました。同日、上記のキャンペーンに参加したジャムサイ出版社からも、1,000冊の子どもの小説を

寄付していただきました。

タイブリヂストンが8年目の自転車ラリーブプロジェクトにご支援

2013年5月20日、タイブリヂストン株式会社の取締役社長の佐藤慎一様(右から2番目)から、8年目のタイブリヂストン自転車ラリーブプロジェクト(Bridgestone Rides The Future)に支援金2,450,000パーツをご寄付いただきました。この寄付金は今年、タイ東北地方のノンブアラムプー県とブンカーン県における学校から遠く離れた200人の貧困子どもたちに奨学金及び貸し自転車を提供します。



The Education for Development Foundation
มูลนิธิเพื่อการพัฒนาเด็ก

The Education for Development Foundation (EDF)
50, Kasetsart University Alumni Bldg., Phaholyothin Rd., Ladyao:
Jatujak, Bangkok 10900
Tel. 0-2579-9209-11 (タイ語) 0-2942-8538 (日本語) Fax. 0-2940-5266
Email: public@edfthai.org URL: www.edfthai.org/jp

日本でのお問い合わせ：一般財団法人 民際センター
〒162-0081 新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783
Email: info@minsai.org URL: www.minsai.org